

世界遺産アカデミー認定講師 File No.16

このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓発活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当て、お話を伺います。第16回は世界遺産アカデミー賛助会員の池島憲一（いけじま・けんいち）さんです。

——世界史のフィールドワークが きっかけ

高等学校の社会科教師として30年余り教壇に立っていましたが、2001年に心臓病に倒れてから、常勤から非常勤勤務となり、できた余暇で世界史のフィールドワークを始めたのがきっかけで、世界各地の世界遺産を巡るようになりました。これまで訪れた場所は仏教の故郷・インドを皮切りに50カ国、200の世界遺産を数えます。私自身は九州・離島の漁師の子でも、海外旅行も若い頃に一度だけ、冷戦下の東ドイツとポーランドを訪れただけです。ところが、世界の史跡を調べ、実際に足を運んでいくうちに、世界遺産にすっかり魅了されてしまいました。「世界遺産」と名の付いた書籍を手取るようになり、学校の生徒たちにも世界遺産に関連したレポート提出を課しました。2009年の夏から世界遺産検定を受検し始め、低い点数ながらもマ

イスターに認定されました。世界遺産アカデミー認定講師まで進んだのは、全くもって自分自身の学習の楽しみのためです。世界遺産を通して、政治・経済、地理・歴史、民族や文化、雄大な自然を知ることが、とにかく面白い。実は、認定講師としての活動の方が、マイスターを目指していた以前よりも、ずっと強い学習の動機づけとなっています。なにしろ責任が伴うからです。色々な方々に世界遺産の魅力を伝えたいのは言うまでもありませんが、多様な文化の違いを知ること、人類の宝を守り、平和の実現に結びつくという、高い志を共有することができます。現在、私は観光学部の大学生たちや、旅行会社で実施する検定対策講座などを担当しています。高校生の接し方には慣れてはいるものの、大学生や社会人となると、私の方にも遠慮があって、少々勝手が違います。そこで、旅行先で撮影した写真を展示したり、宇治上神社の「うさぎみくじ」や東寺の御守を景品に世界遺産クイズを行ったりして、ひと工夫。今度はイスラーム、ユ



イランのペルセポリスにて。
イランの人々はとてもフレンドリーです。

ダヤ、インドそれぞれの帽子を使って、ファッション比較パフォーマンスを試してみようかと思っています。もちろん、論理明快で実りある講義を作ることが優先でしょう。

——文化交流に関心もつ ～具体的・分析的に学ぶ～

かつてベトナム・ハノイの市場で犬の丸焼きを見て、思わずギョッとしてしまいました。わが国でも江戸時代には犬を食したとの記録が残っているようです。ベトナム文化は、日本や朝鮮と同様に、中国の影響下にありました。その一方で、ミーソン遺跡はヒンドゥー教の聖地となっていますし、サイゴン大教会のようなフランス領時代に建築されたカトリック教会も残っています。バリ島のヒンドゥー教にはカースト差別がなく、東南アジア海洋地域ではイスラーム教、ヒンドゥー教、仏教、キリスト教が併存し、その多様性が魅力的です。アステカ帝国やインカ帝国を滅ぼした、スペインによるカトリック強制は、先住民たちの精神を支配する道具でしたが、カトリック布教活動は時代と地域によって、その意

味合いと役割がかなり異なります。とりわけブラジルとアルゼンチン、パラグアイでのイエズス会による布教活動は興味深く、そういった国々の革命家たちはカール・マルクスよりも、「解放の神学」と謳われるようにイエス・キリストを高みに置いています。異文化の交流によって何が生み出されたのか、一般論や抽象的命題にとどまらず、具体的・分析的に学ぼうというのが、私の指針です。

——ハリウッド版『ゴジラ』に違和感

世界遺産を多角的に捉えていくと、『アウシュヴィッツ・ビルケナウ - ナチス・ドイツの強制絶滅収容所(1940-1945)-』、『広島平和記念碑(原爆ドーム)』、『ビキニ環礁 - 核実験場となった海』といった「負の遺産」は、人類の課題を考えさせる重要な学習テーマだと思います。最近鑑賞

したハリウッド版の映画『ゴジラ』では、1954年の核実験について、ゴジラを倒す目的で実行されたと肯定的に描かれ、核兵器の使用さえ正当化されていて、大きな違和感を抱きました。

今年6月からパソコンを利用し始め、日々インターネットとメールの練習ですが、第38回世界遺産委員会の実況生放送をWebサイト上で視聴することができましたし、探し求めている資料がすぐに検索できて、とても便利です。今後の自分自身の世界遺産活動として、『ヴェリチカとポフニャの王立岩塩坑』、『ザルツカンマーグート』、『アルケ・スナン王立製塩所』で塩生産の歴史を探り、ハンザ同盟都市における交易品（タラやニンシ、塩など）の役割を、現地で実際に確認できるようなテーマのある旅をしながら、世界遺産を研究していきたいと考えています。隠居はまだまだ遠い先の楽しみとして、取って置くことにします。